

平成 28 年度 第 1 回伊丹市総合交通計画推進協議会

議 事 録

伊丹市総合交通計画推進協議会

平成 28 年度 第 1 回伊丹市総合交通計画推進協議会

1. 日 時 平成 29 年 2 月 9 日 (木) 午前 10 時から 11 時 40 分

2. 場 所 伊丹市防災センター 3 階 303 会議室

3. 出席者 【委員】

秋山 孝正委員、榎木 光夫委員、大池 津由美委員、西本 忠夫委員、
奥野 雅弘委員、野津 俊明委員、野口 一行委員、西本 秀吉委員、
高野 敬二委員、松本 裕之委員、大原 成幸委員、岩原 直子委員、
長田 憲二委員、大石 正人委員
※長澤 卓夫委員は欠席

【事務局】

交通政策室長 真田 美樹、交通政策課長 乾 義昭、
交通政策課副主幹 矢野 敬一

4. 傍聴者 なし

5. 次 第

1 開会

2 開会挨拶(都市交通部長)

3 委員紹介

4 会長・副会長の選出

5 会長挨拶

6 事務局の紹介

7 議事

(1)議事録署名委員の指名

(2)「伊丹市総合交通計画推進協議会設置要綱」について

(3)「伊丹市総合交通計画推進協議会傍聴要領(案)」と会議の公開について

(4)伊丹市総合交通計画及び伊丹市総合交通計画推進協議会の役割について

(5)伊丹市総合交通計画重点施策実施状況について

8 閉会

議事記録

1. 開会(省略)

2. 開会挨拶(都市交通部長)(省略)

3. 委員紹介(省略)

4. 会長・副会長の選出

会長：秋山 孝正委員 副会長：榎木 光夫委員

5. 会長挨拶(省略)

6. 事務局の紹介(省略)

7. 議事

(1) 議事録署名委員の指名

会 長： 本日の議事録に署名をいただく方を会長より指名させていただくことになっている。名簿の順に大池津由美委員と西本忠夫委員にお願いしたい。

(2) 「伊丹市総合交通計画推進協議会設置要綱」について

<事務局より要綱について説明>

(3) 「伊丹市総合交通計画推進協議会傍聴要領(案)」と会議の公開について

<事務局より傍聴要領(案)等について説明>

会 長： 原則、会議は公開することになる。内容によっては、会長の判断で非公開にする場合もあると思うが、異議はないか。

<「異議なし」の声あり>

会 長： では、この傍聴要領を原案どおり決定する。本日は、傍聴者がいないため、次の議事へ参りたい。

(4) 伊丹市総合交通計画及び伊丹市総合交通計画推進協議会の役割について

<事務局より計画及び推進協議会の役割について説明>

会 長： ただいま事務局より説明があったが、ご意見、ご質問等あるか。

A委員： 資料①-2、施策一覧の重点施策のところに a、b との記載があるが、これはどういう意味か。

事務局： 伊丹市総合交通計画の本編にそれぞれ施策の一覧表があり、その中に○印を付けた重点施策がある。一つの基本戦略中に複数の重点施策がある場合に項目を分けるための番号として、a、b、c という記号を使用している。

事務局： 補足するが、資料①－2内の重点施策欄の横の○印は、早期着手施策の事業ということである。

会 長： 資料①の3ページに評価指標が記載されているが、どのように考えたらいいか。どう使うのか。平成32年度と書いてあるものは、達成目標ということか。

事務局： 計画の前期が平成32年度、後期が平成37年度までということで、計画目標を分けている。目標値の設定方法は、見直しを5年ごとにするという前提で、例えば自転車レーン等の整備区間の延長であれば、平成26年度当初3.6kmを、5年後の平成32年度までに13.8kmを目標と設定している。基本戦略の1－①について複数の指標があるのは、基本戦略1－①の中には様々な施策があるが、基本戦略を評価する指標としてこの3つを設定している。同様に、それぞれの戦略ごとに複数の評価する指標を設定している。

会 長： 記載されている評価指標は、数値がわかるような指標、例えば利用台数や犯罪の認知件数等は5年後に想定する指標と、整備区間延長などの、どこまでやるかという目標の意味での指標であり、二種類の指標が両方入っている。

事務局： 指標を検討する時に、改善項目を評価できるような数値的な指標を設定することで議論いただいた。項目によっては具体的な数字で表すことができる指標、いい数値目標が見当たらず、街頭犯罪認知件数のような指標を使うこととなった。

会 長： たとえば2－①、鉄道乗降客数はどのように見るのか。200人増えたら目標達成か。それとも、要するに、あまり減らないようにするということか。

事務局： 算出に当たっては、データ等を使って数値目標を設定した。鉄道の平成32年度の数値は、1つの考え方として使ったものである。伊丹市民の鉄道利用者数が、平成27年度の1日あたりトリップ数と平成32年度の予測のトリップ数の伸び率を今の97,000人にかけて97,200人という数値を算出している。この出し方が良いか悪いかもあるが、伸びていくような根拠となる数値として、トリップ数を使って指標を考えている。

会 長： あまり細かいことにこだわっているわけにはいかないのですが、また、整理しておいてもらいたい。他に何かあるか。本日の会議は、役割の説明ということなので、中身については、7月に細かく議論されるということですのでよろしいでしょうか。

事務局： 平成28年度の進捗状況と指標を合わせながら議論したいと思う。

会 長： 次回、個別の各指標がどうなのかということを議論する機会があるようなので、今日は説明ということで理解したいと思う。よろしいでしょうか。

<「異議なし」の声あり>

(4)伊丹市総合交通計画重点施策実施状況について

<事務局より重点施策実施状況について説明>

会 長： 概要版に記載されている重点施策と書いてあるところの説明と合わせて、これまでの期間で、関連してどういう施設が出来たかという話について資料②で説明があった。ご意見、ご質問等ありますか。

B委員： 資料②の10ページだが、市バスの中吊り広告、全車両94台と記載があるが、実際は93両である。訂正いただきたい。

会 長： 他に意見はありますか。空港のバスの話があったが、PR活動等したというの
はわかったが、何か効果が出たのでしょうか。

事務局： 年に1回、バスの乗降者数を決算時に報告している。このPR活動自体は平成26年度以降、積極的にアピールしている。チラシの配布や、商工会議所に折込みチラシを入れていただいたことで、近年、若干ずつではあるが、乗者数が増加している
ので、一定の効果はあったと思っている。

会 長： 当該路線の乗降者数はわかっているのでしょうか。

事務局： 路線毎に算出しており、直行便である26系統については、年間の乗車数が平成26年度と比べて、平成27年度は増加している。

会 長： 月別等は出せないのか。電子化されているから出せると思うがどうか。

事務局： 伊丹市交通局では、定期券はI Cではないので、そのような集計はできていない。

会 長： もう1点、PRについて、駅やバスの中等の乗っている人に宣伝するよりも、広域的にPRしたほうがいいのではないか。まず伊丹まで来てもらわないと、乗らないと思う。

事務局： 広域的なPRは、経年的にホームページや公共施設で実施している。来年度は、人通りが多い箇所への横断幕設置を考えている。

C委員： 大阪駅や梅田駅、川西池田駅でPRしてはどうか。市民は市バスを利用して空港へはそんなに行かない。伊丹駅周辺の人に行くかもしれないが、一旦バスで伊丹駅まで行って乗り換えなければならない人は、お金がかかっても、タクシーで行く人もいる。どちらかというとなPRは市外向けだと思っている。JR塚口駅や川西の方が、伊丹に行った方が早いと思ってもらえるならば、そういうところに貼った方がいいのではないかと思う。「市内に」と言っても市内で需要があるのは駅周辺の人だけだと思う。もう1回バスに乗らないといけない人は、面倒なので、ほとんど乗らないと思う。

事務局： 取組みは、各年度でターゲットを変えて実施している。平成26年度は、尼崎北部の方のビジネスマンを対象に、尼崎商工会議所に依頼して、加盟企業等にPRを実施した。他市にもPRするという事は検討して実際にやっているのだから、委員のご意見も踏まえてPR方法も考えていきたいと思う。

会 長： とりあえず何でもかんでもやってみようというのもわかるが、これは一種のマーケティングのようなものなので、もう少し細かいデータを取れるようにすればいいのではないか。何の政策をやった時にどのくらい増えたか、どういう効果がどこに出たかがわからなければと思う。

事務局： どこからの利用者が多いかという調査では、尼崎市の南部と西宮市より西側からの利用者は、空港へのアクセス手段に市バスを利用する方が少ないというデータが出ているので、平成26年度は尼崎のビジネス客にターゲットを絞ってPRを実施した。また別の調査では、三田など北部の方も利用しているというデータから、兵庫県の空港政策課が新三田駅や三田駅周辺でPRを実施した。関連部局とも情報共有をしながら出来ることをやりたいと思っている。

会 長： いろいろなPRを実施した中で、どのPRが一番効果的だったのか、PRごとに細かく調査できないのか。それから、誰が使うようになったとか、サラリーマンの人か、普通の学生みたいな人か、インバウンドの人かということが分かれば、次の戦略がだいぶ違うのではないか。

事務局： 今年度のPRについては、平成28年の2月頃に関西エアポート様が空港の中で調査された結果をいただいた。利用者はビジネス客と旅行者が多かったことから、今回、旅行者を対象としたPRを実施した。どれだけ利用者が増えたかということは旅行代理店等にも声を掛けているので、聞き取りに行かなければならないが、個別に出来るところは検討したいと思う。

会 長： わかりました。他にご意見ある方は。

D委員： さまざまな取組みを見せていただいて、よくされているなと思った。多くの税金なり市の人的資金が投入されている施策が幅広く市民に還元されるものということは非常に理解できるが、市バスの空港利用ということに限っては、市バスの経営安定化という点で、市民にとって支えになるので、一概に是非は言えないが、異質な感じがした。ただ、今のような取組みで、空港自体の利用者が増えるようなものではないので、マイカー等から転換すれば良いが、現在何を利用されている方からの転換を期待されているのか。会長が、インバウンドとおっしゃっていたが、例えば、駅での乗継が便利になればなるほど、市外からの方の利便性が向上して、その選択肢を多様化することは可能であると思うが、伊丹市を通過される可能性も増えると思う。市にとって直接的な利益というのは、空港利用者にかにワンストップしてもらうかということ。もちろん、同時並行的に進めることもできるので、全体として何も問題はないが、ややバランスがと思う。

事務局： この総合交通計画自体が市民に限定せず、誰もがということを理念でうたっている。策定委員会の中でも誰をターゲットにするのかという議論があったが、市民だけではなく市内で活動される方、観光に来られる方、ビジネスで来られる方、仕事で拠点とされている方、様々な方が快適に移動できるということを理念としてくくっている。この空港直行便についても、市民の利用が増えればなお良く、観光客の利用も増やしたい。それが基本目標3「中心市街地の回遊性とにぎわいの向上」に繋がっていくとして、計画を作っている。実際にバスを利用している方はどうい方が多いのかということ、通勤がメインとなっている。通勤で乗られている方が市民なのか市外なのかは調査が出来ていないが、日中よりも朝夕が多い、通勤・通学の時間帯の利用が多いと分析している。中心市街地の活性化、ワンストップについては、同時期に策定された中心市街地活性化基本計画に、インバウンド対策や商店

の活性化の取組みについて盛り込まれている。その計画の担当部局と協力しながら、交通部門からの街の活性化について

会 長： 確認ですが、本日説明いただいたものもう少し細かいものを7月にまた説明をいただけるということか。どのようなものでしょうか。

事務局： 7月の進め方については、今後会長ともご相談していきたいと思っているが、概要版の20ページにそれぞれの評価指標に基づいて平成28年度の取組みがどれだけ結果として伸びたのか、今回は市、行政機関の取組みを報告したが、7月には、例えば、自転車安全教室であれば市と警察署と協力して実施したという報告も行いたいと思っている。市の取組みだけではなく、各関係機関、委員様の取組み等があれば、報告していきたいので、5月に照会させていただく。

会 長： 5月の時点で1回、どこまで出来たかをまとめてみるということでしょうか。

事務局： 平成28年度の取組みがどうだったのか照会させていただく。

会 長： 目標の数値が平成32年度なので、今年が中間年次であるといってもどこまで出来ていたらよいかを判断するのは難しいと思う。

事務局： 平成26年度から平成32年度までの間は、現状の基本となっている平成26年度から、少しでも評価が上がっていればとは思っている。

会 長： 今日、説明いただいたものよりもう少し指標化されたものを7月にお話いただけるということでしょうか。

事務局： もう少し指標化、数字化されたものになってくるかと思われる。

会 長： 進め方について、5月に施策の項目について、関係機関の進捗状況を事務局の方でまとめていただき、その結果を7月の本協議会で報告するというところでよろしいでしょうか。

C委員： 指標の計画目標の数について、伊丹スカイパークの来園者数というのが入っている。これはどのように算出しているのか。

事務局： どのように計測しているかは、こちらの方では把握していない。伊丹スカイパ

ークの来園者数については報告数値があり、担当課が何らかの方法で計っていると考えている。

C委員： 鉄道の乗降客数というのはJRと阪急を足したものであるということでしょうか。

事務局： はい。

C委員： 交通について考える団体とあるが、これは市民団体の数が増えたらいいということか。

事務局： 施策がたくさんあるため、検討出来ていない状況であるが、例えば、市バスモニターでの団体、もしくは交通のことを考えていただける市民団体等を考えている。交通を中心に、まちづくりに対して地元住民や企業が自ら考え行動する、参画と協働のまちづくりを進めるということで、地元住民や企業、行政との信頼関係を深め、いろいろなことが議論できる団体を作ることが出来たらよいと考えている。

会長： この評価指標については、これで何を分かってほしいのかというところを一度整理し直した方がいいかもしれない。特に気になるのは、単に量を増やせばいいという意味の指標もあるし、回数が増えるとか長さが増えるとか、増えたからいいという目標もあるが、一方で本当の目標は効果である。こういう施策をして、その結果どう変わったか、結果として利用者が増えた、結果として何か、という方が本当の目標のような気がする。整備区間が伸びたからいいという話になっているが、その辺も一度整理してみたらどうか。両方混じっているもので、これを見て進捗状況と言ってもどうか、という気がする。それを次回までに考える必要があるのではないかと。

事務局： この指標については、策定委員会の中で議論いただいて、答申いただいた内容になっている。結果と成果をみる指標が混在しているが、前期の5か年についてはこの評価指標で検証していく。後期の計画見直し時に、施策の見直し等と合わせて評価指標の見直しもできたらいいのではないかと考えている。

会長： はい。その他よろしいでしょうか。今日はこの協議会は何をやるかということをご説明いただいたと思う。本日の議事についてはすべて終了したので事務局の方へ進行をお願いする。

8. 閉会

事務局： 連絡事項について、次回の協議会は議事（４）の説明のとおり、５月頃に資料等の照会をさせていただく予定である。また、資料照会と合わせて開催日時も照会するので、ご協力いただきたい。次回会議は、７月頃の開催を予定しているので、出席いただくよう、お願いしたい。